



Murata Report 2015

Corporate Report
CSR Report



Innovator in Electronics®

ムラタが作っている電子部品のことを、
多くの人は知りません。
パソコン、スマートフォン、家電製品、カーエレクトロニクス…。
私たちの日常を支える様々な電子機器のなかで、
ムラタの電子部品は活躍しています。
さらに今、ムラタの電子部品は、
ヘルスケアや、エネルギーなど、
多くの新しい分野で活躍の場を広げています。

エレクトロニクスの世界は急速に発展しています。
社会の発展に貢献するという経営理念のもと、ムラタはこれからも、
Innovator in Electronics®(エレクトロニクスの改革者)として、
常にお客様が何を求めているかを追求し、
世の中に新しい価値を提供することにより、
豊かな社会の実現に貢献していきます。

08

20

10

26

22

Index

Corporate Report	02	Innovator in Electronics®
	03	Index
	04	Message from the President
	06	Murata Technologies
	08	Integrated Production System
	10	アプリケーション別製品紹介
	14	財務ハイライト
CSR Report	16	グローバルネットワーク
	18	CSRコミットメント
	20	事業とCSR
	22	環境特集
	24	環境保全推進
	26	従業員への責任と行動
	28	リスクマネジメント／ コンプライアンス
	29	社会・地域への責任と行動
	30	CSR活動における目標と実績
	32	第三者からのご意見
Profile	33	国内外拠点一覧
	34	役員一覧
		株式の状況
		大株主の状況

※本誌では村田製作所グループ全体をムラタと表記しています。

Murata Philosophy

グローバルに共有する、
ありたい姿、感謝の気持ち。

社是

技術を練磨し
科学的管理を実践し
独自の製品を供給して
文化の発展に貢献し
信用の蓄積につとめ
会社の発展と
協力者の共栄をはかり
これをよこぎ
感謝する人びと
ともに運営する

モバイルから次の成長分野へ、自ら市場を創出する。

ムラタでは、ありたい姿を「コーポレートグランドデザイン」としてまとめています。その実現のための戦略となる「中期構想」は2013年度からスタートし、3年目の2015年度が最終年度となります。モバイル通信をはじめとしたムラタが得意とする市場へのさらなる価値提供に加え、次の成長市場として注力している自動車、エネルギー、ヘルスケア・メディカル分野においても、自ら市場を創っていく意気込みでチャレンジして参ります。

お客様と共に、パートナーと共に、新たな価値提案へ。

ムラタはコンデンサに代表される汎用部品、様々な新しいデバイス、モジュールの提供でビジネスを拡大して参りました。今後も、新しく習得した外部の技術を含め、これまでの経験を通して新しい価値を生み出していく意気込みです。例えば、少しずつ普及し始めているIoT*においても、ムラタの豊富な知識と技術を生かし、お客様と共に最先端の商品作りをしていく気概を持って取組んで参ります。

1兆円達成をステップに、さらにムラタらしく。

2014年度、ムラタは売上高が1兆円を超える企業に成長しました。これはひとえにお客様をはじめ、様々なステークホルダーのみなさまからのご支援とご指導の賜物と厚くお礼申し上げます。「協力者の共栄をはかり これをよこぎ感謝する人びととともに運営する」。常に私たちの判断、行動の軸としてきた「社是」の一節を改めて深くかみしめ、新しい価値提供への挑戦を続けていきます。ムラタを取り巻く環境は常に大きく変化しますが、社是に込められた想いは変わることはありません。ムラタではこれからグローバルのメンバー全員で感謝の気持ちを持ちながら、「Innovator in Electronics®」として企業の社会的責任(CSR)を果たし、社会の発展に貢献して参ります。

代表取締役社長

村田 恒夫



Murata Technologies

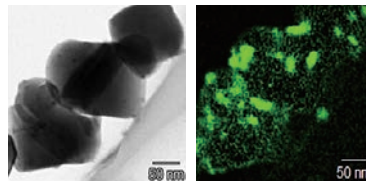
エレクトロニクスの未来を創造する

材料から製品までの一貫生産体制を構築しているムラタでは、材料技術、前工程技術、商品設計技術、後工程技術、分析・評価技術などの基盤技術を独自に開発、蓄積しています。また、外部とも積極的に協業し、将来を見越した技術や製品の開発により、新たな市場やイノベーションの創出をめざしています。

材料技術

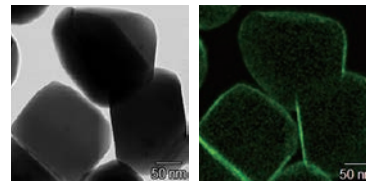
「よい電子機器はよい電子部品から、よい電子部品はよい材料から…」ムラタではこの考えをベースに求められる機能を常に材料にまで立ち返って、源流での管理、源流からの開発姿勢を貫くことで、優れた特性を持った機能性セラミック材料の創出を実現してきました。セラミック材料で培われた技術は、新しい機能を生み出す材料の開発に展開されています。

2004 - Conventional process



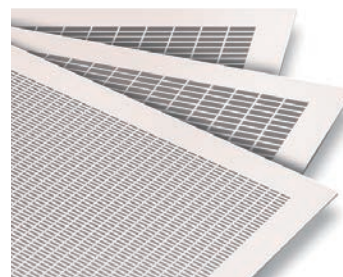
微量添加物の分散コントロール

2014 - New process

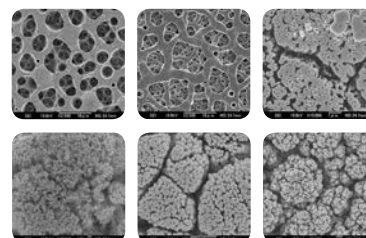


前工程技術

設計された機能を最良の作り方で具体的に発現させるのが前工程技術です。電子部品の小型化、薄型化、高機能化において、前工程技術は重要な役割を果たしています。



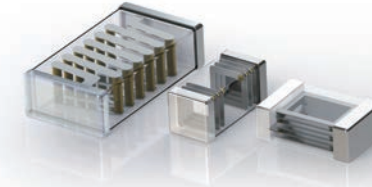
高精度印刷



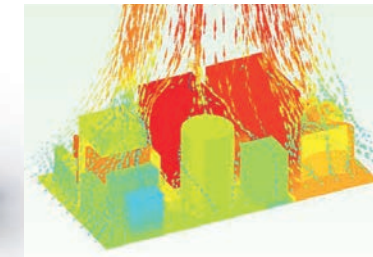
めっき金属の比表面積制御

商品設計技術

単機能部品からモジュールへ、更にはトータルソリューション提案へと、ムラタからの提案は日々進化しています。お客様のご要望に迅速に対応し、未来を見据えた技術、商品の開発に取り組んでいます。



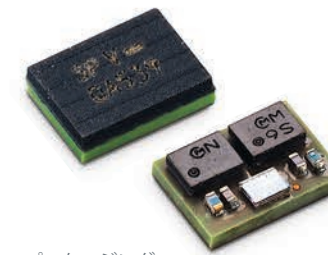
インダクタ構造設計



パワーモジュールの熱解析シミュレーション

後工程技術

自社設計の生産設備とものづくりの専門知識により、製品を効率的、安定的に量産するための技術やノウハウを多く保有しています。



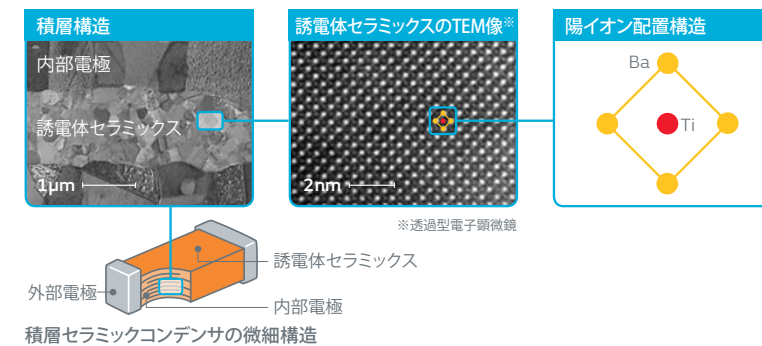
パッケージング



EMC計測

分析・評価技術

高度な故障解析システムと共に、材料の物性、電気特性、組成、構造の評価に科学的分析手法を効果的に用いることで、お客様にムラタの高い信頼性を提供しています。



Shaping
the future

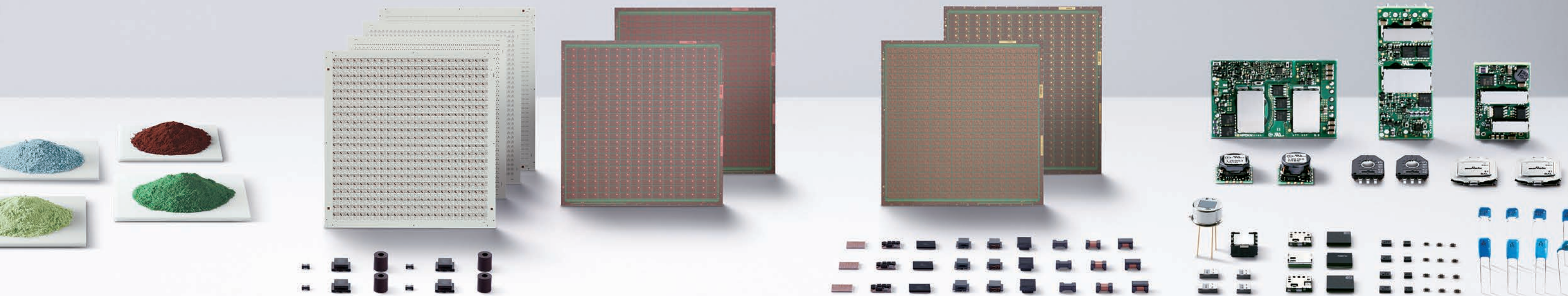
Making
innovation
happen

Attending
to detail

Integrated Production System

全ての技術がまっすぐに市場を、お客様を志向しています。

ムラタの技術体系は、材料から製品まで、緊密に連携し統合されています。全ての技術部門がまっすぐにお客様を見つめ、新しい価値を提供しようとする、そのベクトルの一致が、ムラタの力です。



[ムラタのものづくり]

材料



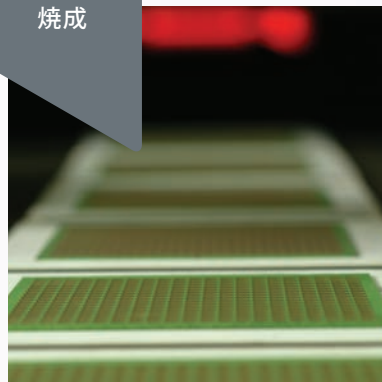
電子部品の特性に決定的な影響を与えるセラミック材料や電極材料を、高い精度で制御する技術を確立しています。

シート成形



厚さ $1\mu\text{m}$ 以下のセラミックシートから、射出成形による複雑な形状まで。
“機能のための形”を追求しています。

焼成



セラミックスは、焼き固められることで結晶構造が変化し、性能を発揮します。炉のなかの目に見えない挙動を制御する技術です。

加工と仕上げ



焼成までの工程を経て電気的な性能を獲得したセラミックスは、次に様々な加工を施されて、「電子部品」として完成されていきます。

検査と梱包



完成した製品は、厳しい検査を受け、その性能を保証されたものだけが、ムラタ製品としてお客様に届けられます。

Communications

[通信]

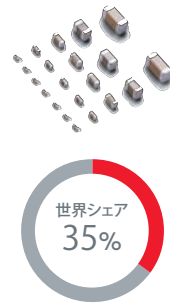
指先でつながる、 世界と、未来と、安心と。

— そこには、もっとつながりたいムラタがあります —

世界中の人々が手に取る携帯電話やスマートフォン。より高速で大容量な通信サービスも登場し、多機能化がすすんでいます。高周波部品の小型化やモジュール化、機能や操作性を向上させるセンサ、低損失なコンデンサやパワーインダクタなどで、進化と普及に貢献します。

積層セラミックコンデンサ

電気を蓄えたり電気の流れを整える働きをし、電子回路には欠かせない部品です。スマートフォンをはじめとするモバイル機器、PCの小型・薄型化・高機能化に伴い搭載数が増加しています。



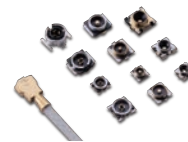
高周波インダクタ(コイル)

電気を流すと磁界と作用し合って電流に影響を与える部品でコイルとも呼ばれています。無線回路や電源回路などで使用されています。



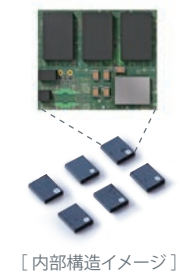
高周波同軸コネクタ

高周波信号を基板から基板へと伝達する同軸コネクタ。スマートフォンやタブレット端末、またウェアラブル端末など、より小型・低背で高機能な通信機器の発展に貢献しています。



高周波モジュール

スマートフォンの複数周波数対応をサポート。周波数切り替え、フィルタリングの従来機能に、信号増幅(PA)機能を一体化。さらなる機能付加で、スマートフォンの薄型化、通信速度の高速化に貢献します。



表面波フィルタ

無線信号のなかから必要な信号だけを取出すフィルタは高周波回路のキーデバイス。ムラタは独自の小型化技術で、回路設計の自由度向上に貢献しています。



パワーアンプモジュール

信号を増幅し電波を遠くまで届けるスマートフォンのキーデバイス。ムラタのPAはLTEや世界各国の周波数に対応し、スマートフォンの高機能化に貢献しています。



コネクティビティモジュール

無線通信によってモバイル機器からインターネットにアクセスするための複合部品です。スマートフォンの多機能化の流れをリードしています。



低ESL積層セラミックコンデンサ

MPUIに供給する電力を安定化させる小型大容量コンデンサで、モバイルPCの小型、薄型化に貢献します。



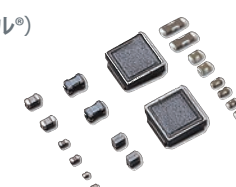
ショックセンサ

圧電セラミックスを応用して、加速度や振動を電気信号に変換する電子部品です。主にHDDで、外部からの衝撃による書き込みを防止するためのセンサとして使用されています。



チップEMI除去フィルタ(エミフィル®)

電子機器から発生するノイズを除去するための部品で、電子機器の誤動作防止に役立っています。電子機器の小型化・多機能化・高周波化に伴い複雑化する電磁波ノイズの対策や改善に貢献しています。



※各ページの世界シェアは業界全体での世界シェアであり、アプリケーション別の世界シェアではありません。
また世界シェアは当社推定値です。市場や用途により異なります。

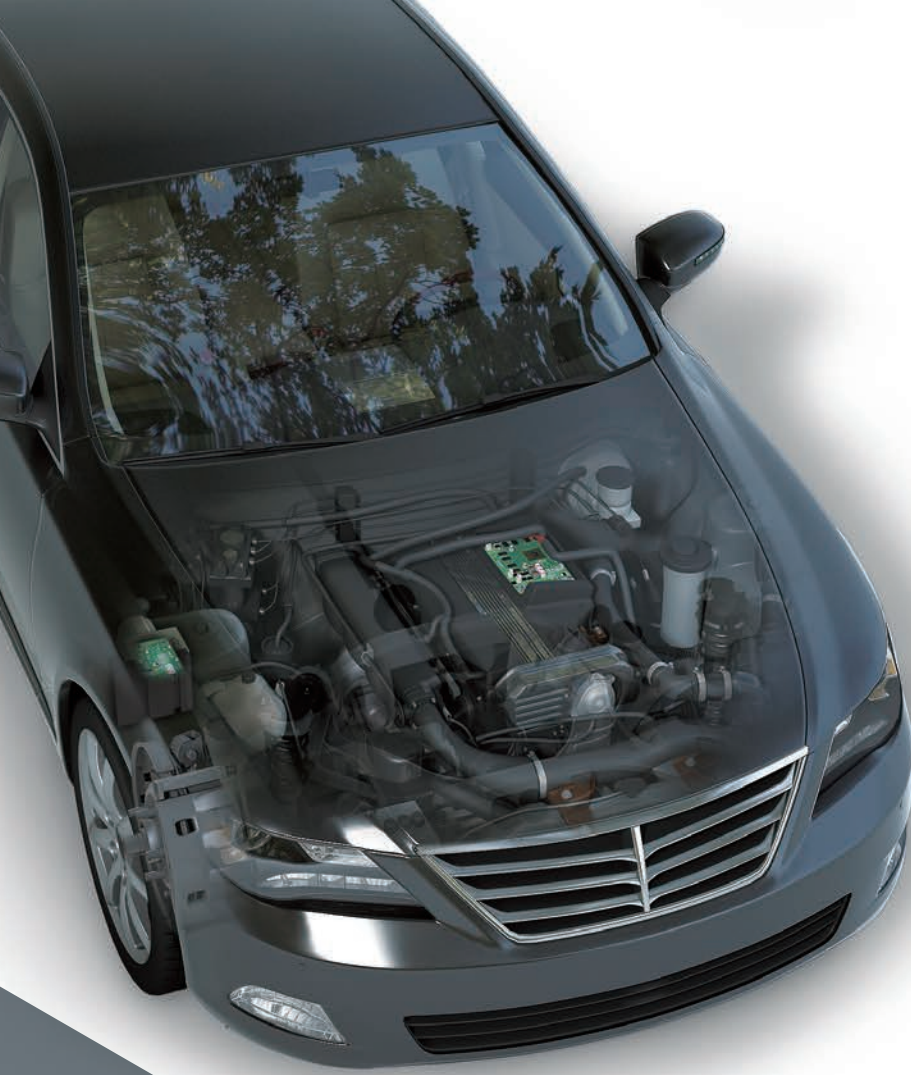
Computers

[コンピュータ]

いつでも、どこでも、 コンピューティング。

— 「簡単」を実現する、簡単じゃない技術をムラタから —

インターネットやクラウドサービスの普及に伴い、手軽に持ち運べて簡単につながる、モビリティを高めた薄型軽量のノートパソコンやタブレット端末が注目を集めています。電子部品の小型・薄型化技術、高密度実装技術、センシング技術などでPCの高性能化、高機能化に対応。低消費電力のコネクティビティを提供する無線通信モジュール、快適な操作性を実現するセンサなど、新時代のコンピューティングをサポートしています。



ジャイロコンボセンサ

加速度変化や重力変化を静電容量変化としてとらえ、加速度値や傾斜角度を検出することができます。車体の横滑り防止装置(ESC)やアンチロック・ブレーキシステム(ABS)など、クルマの基本性能に関わる部分に使用されています。



超音波センサ

圧電セラミックスを振動させることで発生する超音波の反射時間で距離を測定するセンサです。駐車支援システムのバックソナーに使用されています。



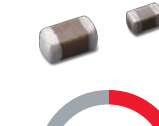
DC-DCコンバータ

ムラタ独自の制御回路とシートトランスを用いた薄型・軽量のDC-DCコンバータです。このDC-DCコンバータ1つで、絶縁が必要な各ブロック(低圧バッテリー入力回路部・高圧バッテリー入力回路部・AC商用電圧入力回路部)の回路部への電圧供給が可能になります。



積層セラミックコンデンサ

セラミックスの耐熱特性を生かした高信頼性コンデンサは過酷な使用環境下でも性能を発揮します。ECU、駆動制御、セーフティー機器などの高信頼性を求められる用途はもちろん、オーディオやナビゲーションなどのインフォテインメント用にも広く使用されています。



パワーインダクタ

自動車の電子制御システム化がすすんでいます。そのなかで電力を効率よく伝達させたり、電子機器から発生するノイズを抑制します。



タイミングデバイス

ICと組み合わせてクロック信号を作り出す部品です。自動車の電装化がすすむと、ECU同士の通信が必要となり、そこには高精度、高品質なクロック信号を作り出すタイミングデバイスが求められます。

水晶振動子



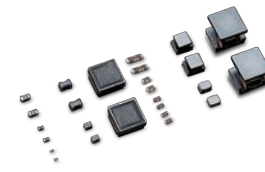
セラミック発振子(セラロック®)



世界シェア
75%

チップEMI除去フィルタ(エミフィル®)

AV機器/家電のデジタル化が進んでおり、機器内部を流れている高速なクロック信号が時に電磁ノイズとして機器に悪影響を与えることがあります。ノイズによる誤動作などを防止し、同時にAV機器の高画質・高音質に貢献しています。



世界シェア
35%

サーミスタ

電圧・電流の変化により抵抗が変化し回路の過熱や充電を監視する部品です。IC、電源回路、バッテリーなどのなかで過熱や過大電流から回路を保護することに役立っています。



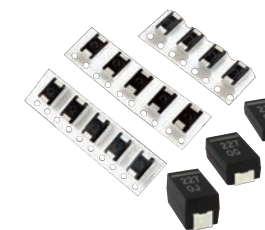
イオナイザ/オゾナイザ(イオニシモ®)

空気分子をイオン化(プラスやマイナス電荷を付与)するデバイスです。空気をイオン化し機能性を持たせることで、消臭、除菌、防カビ、抗ウィルス、除電、帯電などの効果が得られます。



導電性高分子アルミ電解コンデンサ

低背/低ESRを特徴とした大容量コンデンサです。シビアな電圧制御が要求される回路の電圧安定化を担い、AV機器の高機能化に貢献します。



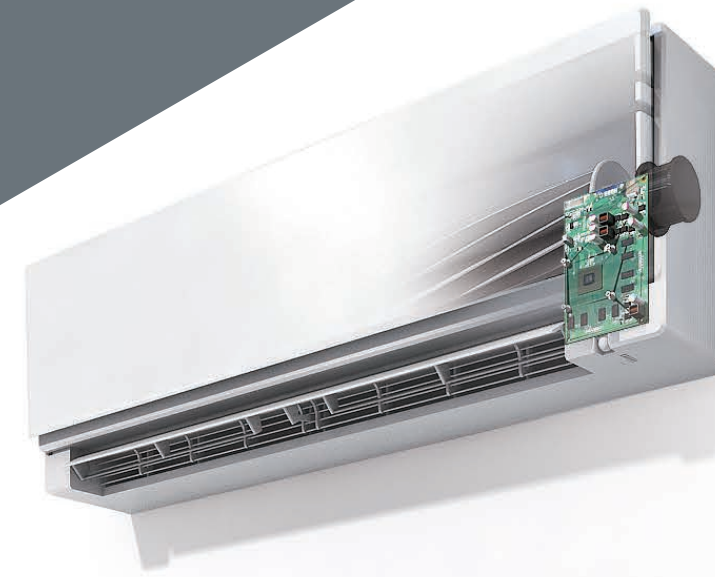
Audio Visual / Home Appliances

[AV/家電]

家のなかには、家族とムラタがいます。

— 賢くて、経済的なのが、おしゃれです —

テレビが、私の好きな番組を覚えていてくれる。エアコンが、人のいるところだけ涼しくしてくれたり、空気にマイナスイオンを与えてくれる。センサやイオナイザモジュール、変換効率の高い電源モジュールが、新しいスマートでエコな暮らしを支えます。



Automotive Electronics

[カーエレクトロニクス]

地球にとって、人にとって、車の技術はこれからももっと。

— だから、ムラタには、まだまだやることがいっぱい —

より安全に快適に移動できる乗り物であること、環境問題に対応していること、ドライブを楽しむエンターテインメントを持ち合わせるなど次世代に向けて自動車のインテリジェント化・電動化が進んでいます。ムラタの電子部品は、安全装備、パワートレイン、情報通信など、あらゆる分野で、過酷な使用条件に耐える高い信頼性を実現すべく、車と共に進化しています。

※各ページの世界シェアは業界全体での世界シェアであり、アプリケーション別の世界シェアではありません。
また世界シェアは当社推定値です。市場や用途により異なります。



「つながる」技術で社会に貢献。

小型・高性能・高信頼の電子部品は、ますます成長しています。

現在、世界中で販売されている携帯電話の75%を占めるスマートフォン。なかでもマルチバンド対応のLTE端末の普及が予測されています。カーエレクトロニクスの分野では、電装化の進展や、横滑り防止装置をはじめとする安全機能の向上、インフォテインメントなど車載通信の成長が見込まれます。電子部品に対する需要は、さらに小型薄型、高性能、高信頼性へ…。ムラタでは、コンポーネント製品に加え、主力製品である積層セラミックコンデンサや圧電製品、複数の部品を部品内蔵技術と多層プロセス技術で集積化した通信モジュールをさらに大きく伸ばしています。

売上高

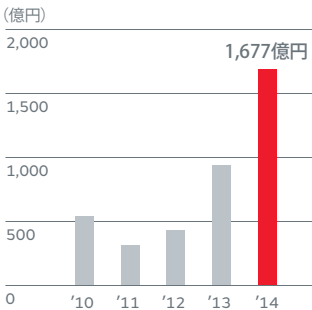
1兆435億円

当期純利益

1,677億円



当期純利益



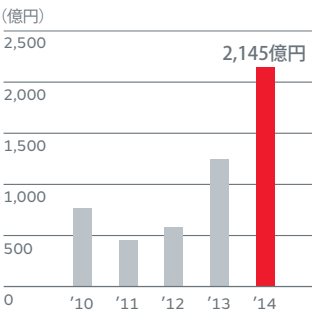
営業利益

2,145億円

総資産

1兆4,313億円

営業利益



総資産



製品別売上

“つながる”社会を支えるモジュールや小型高性能なコンポーネント部品が大きく成長しています。

〔コンデンサ〕

スマートフォン、タブレット端末向けに超小型や小型大容量のコンデンサが、カーエレクトロニクス向けにはハイブリッドカーや電気自動車の普及に加えて、自動車の電装化の進展で高信頼性のコンデンサが増えています。

〔圧電製品〕

携帯電話のマルチバンド化に伴い表面波フィルタが伸長。圧電センサは、HDD向けにショックセンサが好調。水晶デバイスは、家電用やカーエレクトロニクス用が需要を押し上げています。

〔その他コンポーネント〕

高周波コイルやコネクタがスマートフォンやタブレット端末向けに増加。EMI除去フィルタは、カーエレクトロニクス向けやスマートフォン向けで好調。横滑り防止装置(ESC)に使われるMEMSセンサは、カーエレクトロニクス向けで伸びています。連結子会社化した東光株式会社のコイル関連製品も売上に貢献しています。

〔通信モジュール〕

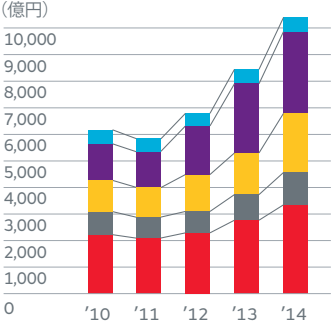
スマートフォンやタブレット端末の通信速度高速化、多機能化、マルチバンド化でセット1台当たりの部品点数は増加しています。RF部の占有面積の削減などを目的に複数の部品をまとめたモジュール化の動きがすすんでおり、高周波モジュールやコネクティビティモジュールが大幅に増加しています。

〔電源他モジュール〕

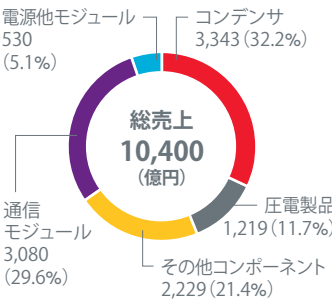
サーバーやカーエレクトロニクス向けで増加しています。



製品別売上高



製品別売上高



用途別売上

通信やカーエレクトロニクスなどに向けて、便利、快適、安心を生み出す幅広い製品群が好調です。

〔通信〕

高速なLTE通信機能を搭載したスマートフォンの普及が拡大しており、超小型・小型大容量のハイエンドなコンデンサ、表面波フィルタ、高周波チップコイル、コネクタといったコンポーネント部品や、高周波モジュールやコネクティビティモジュールといったモジュール部品など幅広い製品で需要が増加しています。

〔コンピュータおよび関連機器〕

タブレット端末の普及拡大により、通信モジュールやコンデンサなどスマートフォン同様に幅広い製品で需要が増加した他、HDD向けにショックセンサも増加しています。

〔カーエレクトロニクス〕

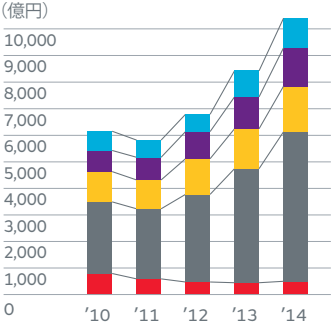
自動車の電装化の進展で、高信頼性の自動車用コンデンサや、横滑り防止装置用のMEMSセンサが増えており、自動車向けの電子部品の需要は販売台数の伸び率以上の成長が見込まれています。

〔AV、家電・その他〕

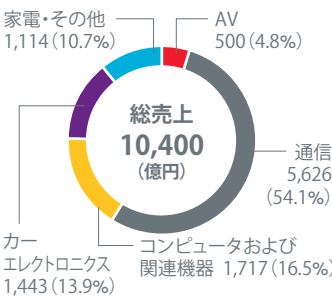
携帯メディアプレーヤーやデジタルカメラ向けに、コネクティビティモジュールが伸長している他、薄型テレビ向けにコンデンサが増加しています。



用途別売上高



用途別売上高



新規

アプリケーション

自動車、エネルギー、ヘルスケア・メディカル市場…。新しいアプリケーションに、さらに新しい価値を提案していきます。

ムラタが今、注力しようとしているのは、①ハイブリッドカーや電気自動車の普及と電装化で電子部品の需要が急拡大する自動車市場、②再生可能エネルギーの拡大や省エネ技術を駆使したスマートコミュニティの構築が見込まれるエネルギー分野、③健康を意識する世代の増加、医療技術のIT化や電子化で成長が見込まれるヘルスケア・メ

ディカル市場の3分野です。これらは変化が求められている市場です。ムラタは、これまで培ってきたエレクトロニクスの技術(小型化・薄型化の実現、センサ、無線通信のコア技術)やノウハウを生かして新しい価値を提供することで変化を起こし、新しい社会、よりよい社会の実現に向けて、これまでも増して貢献しつつけていきます。

Global Network

Global Network

様々な地域で、105社。

世界のそれぞれの場所で、ムラタらしく、新しく。

ムラタ製品の90%以上は海外で販売されています。

日本、アジア、南北アメリカ、ヨーロッパ。

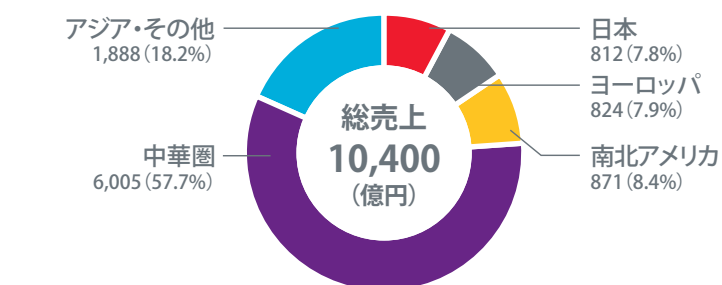
それぞれの拠点が、同じ方針のもとにお客様志向を貫くだけでなく、それぞれの地域の企業市民として愛され、信頼される存在であるように。

そしてまた、それぞれの拠点が同じムラタの仲間として

1つの目的に向かって進んでいけるように。

世界のムラタが、足並みを揃えています。

■ 地域別売上高



※地域別売上高、従業員数、関係会社数は2015年3月31日のものです。
※地域別売上高は、電子部品およびその関連製品の売上高です。

The Americas

売上高 871億円

従業員数 914人

関係会社 15社



Murata Americas
Director of Operations
RF Product Department
Jeffrey Gregus

Global Reach with Regional Emphasis

異なる文化を持つメンバーで自由に意見交換し、地域にも密着したグローバルなRF商品部になること。これが私たちの真のグローバル化に向けた取組みです。今は豊富な経験と、自動車・メディカル・産業機器・エネルギー各市場におけるビジネスリーダーとの密接な関係により、革新的な製品・ソリューションを迅速に設計・開発し、お客様に提供することができています。いつもムラタの理念を忘れず、企業家精神を持って、新規市場におけるお客様の要求にもキメ細かく対応していきます。難しい課題ですが、チャンスは大きいです！

Europe

売上高 824億円

従業員数 1,254人

関係会社 14社



Murata Europe
Sales Manager
Automotive
Benoît Devincenzi

GROW TOGETHER BY SPREADING "NEVER GIVE UP" SPIRIT

私はムラタヨーロッパで自動車関連のお客様を担当しております。私たちのミッションは、世界中で生産されている自動車部品メーカーの製品にムラタの製品を組入れることです。世界に展開するお客様の組織や機能に合わせ自動車部門を強化することで、ムラタも成長していきます。ムラタは自動車市場の主要プレーヤーとなり、安全で環境にやさしい社会にするためのサポートをして参ります。

Greater China

売上高 6,005億円

従業員数 13,346人

関係会社 28社



無錫村田電子有限公司
デバイス商品製造統括部
統括部長
陳 俊

Base on the present, and look forward to the future

大きな中華圏市場にはチャンスとチャレンジがあります。事業部、生産拠点、営業など関連する全部門がしっかりと連携し、お客様の期待に合わせて新たな価値を創造・提供することこそ、ムラタが持続的に発展する道です。私たちは海外の生産拠点として人材育成の取組みをさらに強化し、現地のリソースを活用して、品質、コスト、スピードを重視したもののづくりの基盤を固めていきます。

Japan

売上高 812億円

従業員数 23,565人

関係会社 31社



株式会社村田製作所
通信・センサ事業本部 センサ事業部
シニアマネージャー
大場 義之

感動をともに

環境、エネルギー、ヘルスケアなどの分野における世界のテクノロジーの進化とマーケットの著しい変化は、私たちに文化を発展させるチャンスを与えてくれています。横浜には、開国の歴史を持つ国際都市のDNAがあります。私たちは、先端技術を持つムラタの欧州、アジア、米国の開発拠点とのコラボレーションにより、新たなデバイス、ソフトウェア、回路、無線の技術及び製品を生み出し続けています。ムラタは、これからも世界のお客様のニーズに感動を添えて応えていきます。

Asia and Others

売上高 1,888億円

従業員数 12,715人

関係会社 17社



Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.
Manager
Human Resources and General Administration
Janet Lino Inocencio

Having Talented and Committed Human Resource - edge of Murata gearing up further on globalization.

ビジネス社会は変化が激しく、トップに留まるためには有能でなければいけません。そのなかで人材は最も重要な資産であり、従業員の能力と知識は企業の強みです。そのため、Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.では、従業員の基礎を強化し、彼らに必要な能力と知識を取得するためのサポートを継続的におこなっています。そして、この取組みは最終的に、私たちのミッションである「社会の発展に貢献する」につながっていくと考えています。

地球と共に、社会と共に、人と共に
Innovator in Electronics®

CSR Report 2015

ムラタが創業期から会社の理念として掲げる社是の一節に「独自の製品を供給して文化の発展に貢献」があります。私たちの製品を通じて、生活をより豊かに、より質の高いものにすることに貢献していきたいという強い思いです。

例えば、スマートフォンやタブレットPCは社会インフラといえるものになってきましたが、当社の商品群もスマートフォンやタブレットPCのなかで小型化、高性能化に寄与しています。また、現在注目を集めるウェアラブル端末は将来社会を大きく変革する力も持つ可能性を秘めています。エレクトロニクスが活躍するフィールドはこれからも大きく広がり、自動車分野ではより安全に、より環境にやさしく、エネルギー分野では限られた資源や環境問題の解決に貢献し、ヘルスケア・メディカル分野では人々の健康と生活の質的向上を支えていきます。

このような事業を通じた社会への貢献に加えて、持続可能な社会を実現するためには、環境問題、人権問題など、解決すべき課題が世界にはまだ多くあります。例えば、エレクトロニクス業界では紛争地域の鉱物資源問題の解決に向けて早くから関わってきましたし、ムラタはこの問題にサプライチェーンとも協同し、真摯に取り組んでいきます。

また、当社はグローバル人材の育成、女性の活躍など多様な人材が働く環境づくりにも力を入れています。更に、多様なバックグラウンドや価値観を尊重し、国内外の拠点で人材交流をおこなうと共に経営理念やめざす方向性をグローバルに共有し、社会に対して最良の価値を提供するための様々な取り組みをおこなっています。

グローバルにビジネスを展開するにあたり、贈収賄防止などのコンプライアンス教育、また機密漏えい防止など情報セキュリティ対策も推進しています。

ムラタの社是には、「会社の発展と協力者の共栄をはかり、これをよるこび感謝する人びととともに運営する」という一節があります。ムラタは事業展開する国内外それぞれの国や地域にあっても、「そこにムラタがあることがその地域の誇りでありたい」との思いを持って事業運営をおこなっています。

今、当社はCSR経営を推進するにあたって経営理念を基軸とする「CSR憲章」のもと、CSR統括委員会を組織しております。ムラタはこれからも「地域や社会に開かれた存在であり、信頼し尊敬される企業であり続けること」「お客様にムラタと一緒にビジネスをすることについて安心感を持ってもらうこと」をめざして、CSR統括委員会と、その傘下の各関連委員会の活動を通じ、社会の持続的発展に向けたCSR経営を継続的且つ計画的に推進して参ります。

代表取締役社長 CSR統括委員会 委員長

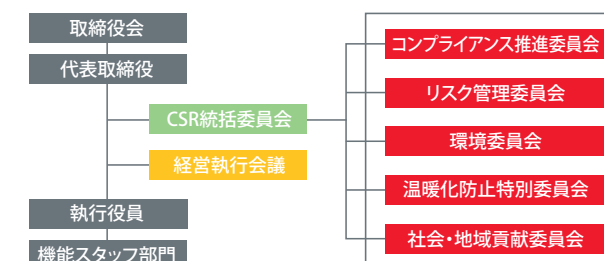
村田 恒夫

CSR憲章（概要）

ムラタでは、ムラタの経営理念をふまえて、法令の遵守はもとより、高い企業倫理観にもとづき、透明性の高いガバナンス、人権尊重、安全衛生、社会貢献、環境保全などに取組むことにより、社会から信頼される企業であり続けることを目的として、当社に働く全てのものが遵守すべき規範として「CSR憲章」を定めます。

企 業 統 治	私たちは地域や社会に開かれた存在であり、信頼され尊敬される企業であり続けるために、説明責任を果たし、経営の効率化と透明性を高めていきます。
人 権 と 労 働	私たちは一人ひとりの人権を尊重し、尊厳を持って対応します。
安 全 衛 生	私たちは安全で快適な職場環境を確保し、従業員の健康管理をおこなうことで、製品・サービスの質と従業員のモラル向上をはかります。
環 境 保 全	私たちは企業活動の過程で生じる社会、環境、天然資源への悪影響を抑え、健康で安心して暮らせる社会の実現をめざします。
公正取引・倫理	私たちは社会的責任を果たし、社会から信頼される存在であるために倫理の最高の水準をめざします。
管理の仕組み	私たちはこのCSR憲章を遵守するための管理の仕組みを構築し、継続的な改善をはかります。

CSR関連委員会組織図



CSR憲章と、CSRに関連する方針類

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ■ CSR憲章 | ■ 購買方針 |
| ■ 企業倫理規範・行動指針 | ■ 品質基本方針 |
| ■ 人権・労働に関する基本方針 | ■ ディスクロージャーポリシー |
| ■ 労働安全衛生方針 | ■ 社会・地域貢献活動基本方針 |
| ■ 環境方針 | |

報告対象範囲と情報開示体系

本レポートでは、ムラタのCSRとその取り組みを把握して頂きやすくするため、要点を絞って報告・編集しています。詳細な情報や事例、各事業所別の環境データなどは、株式会社村田製作所のWebサイトに掲載しています。なお、財務情報についての詳細は「投資家情報」をご覧ください。

報告対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日
※一部、2014年3月以前、2015年4月以降の取組みについても報告しています。

報告対象組織

村田製作所グループ（株式会社村田製作所及び国内外の関係会社105社）

Web このマークで示す項目はWebサイトでさらに詳しい情報を公開しています。



エレクトロニクスの可能性を示す、ムラタの新しいロボット。

ムラタは2014年、ムラタセイサク君®、ムラタセイコちゃん®に続く、新しいロボット「村田製作所チアリーディング部」を開発しました。村田製作所チアリーディング部は、ボールの上でバランスを保ちながら10体でフォーメーションダンスをおこなうロボットで、ムラタのスローガン「Innovator in Electronics®」にちなみ世界中のイノベーターのみなさんを応援します。

この村田製作所チアリーディング部にはムラタのセンシング、コミュニケーションテクノロジーが搭載されています。1つ目はボールに乗ったまま止まっても倒れない「倒立振子制御技術」です。搭載されている3つのジャイロセンサが体の傾きを検知し、姿勢を保つためにどの方向にどの速度で移動すればよいかを瞬時に計算してバランスを保ちます。

2つ目は「群制御技術」です。これは、複数体のロボットが協調して走行する機能で、京都大学との共同研究により実現しました。10体のロボットが美しいフォーメーションを作ります。

3つ目は「超音波位置計測技術」です。それぞれのロボットには、赤外線センサと超音波マイクが搭載され、音と光の速度の差を利用して距離を測定しています。超音波を利用することで、暗闇でも位置を計測できます。10体のロボット位置情報は、無線通信によりホストコンピュータに送られた後、グループで動くための指令が各ロボットに返されます。

村田製作所チアリーディング部には、エレクトロニクスの可能性を示すロボットとして、ムラタの製品、技術力、チャレンジ精神が詰められています。そしてロボットを通して、我々の製品や技術が人々の豊かな暮らしの実現にどのように貢献しているかをみなさまにお伝えするために活用しています。

例えば、姿勢制御用のジャイロセンサは、自動車のESC（横滑り防止）装置などに使用されており、安全運転支援に貢献している技術です。また、センサと通信は、世のなかのあらゆるモノやコトが、インターネットを介して幅広くつながっていくコネクテッドワールドの実現においてキーとなる技術です。

こうした多様化するニーズに迅速に応えるためには、ムラタの豊富な知識や技術に加え、外部とも積極的に協業し、将来を見越した技術や製品の開発が求められます。今回の新しいロボット開発においては、京都大学などとの共同開発という形で新たな価値の創出が実現しました。京都大学の群制御技術を共に発展させ、村田製作所チアリーディング部の開発に適用することで、これまでにないパフォーマンスの実現に成功したのです。

村田製作所チアリーディング部は、ムラタが描くビジョンを伝えるアンバサダーとして、これからもみなさまに驚きと感動を与えていきます。



〔村田製作所チアリーディング部〕

応援します、 世界中のイノベーター。

プロジェクトメンバー

株式会社村田製作所
生産本部
モノづくり技術開発統括部
青木 保憲

株式会社村田製作所
通信・センサ事業本部
IoTソリューション事業推進部
堀邊 隆之

株式会社村田製作所
技術・事業開発本部
共通基盤技術センター
磯島 義彦

株式会社村田製作所
ヘルスケア事業統括部
医療・ヘルスケア機器開発部
久保 昌幸 / 辻 滋

株式会社村田製作所
生産本部
モノづくり技術統括部
林辻 洋志 / 北河 満 / 守井 知之 /
南 誠 / 田中 雄太

株式会社村田製作所
管理グループ
広報室
吉川 浩一 / 細見 桂子 / 澤田 朋子



[環境グローバルミーティング]

グローバルで共有する ムラタ環境スタンダード。

写真左より

Murata Electronics Oy Sourcing & Logistics
Jukka Vähäsarja

Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.
Environmental Control
Ryla A. Nunag

株式会社村田製作所 管理グループ 環境・安全部
上浦 章史

Murata Electronics Oy Quality and Environmental Systems
Mary Iivanainen
Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd. Ceramic Chip Cap Factory
Anand Ariyaratnam

Murata Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. Safety,
Environment and Training Section
Norparah Sahirah Binti Harun

Murata Electronics (Thailand) , Ltd.
Administration Department
Supathat Thippanya

世界の環境担当者が“顔の見える関係”のなかで 環境活動のベクトルを合わせる。

ムラタではこれまで環境活動のレベルアップをはかるため本社と国内工場を中心に活動をすすめてきましたが、グローバルに事業が拡大している今、海外生産工場についてもさらなるレベルアップが不可欠です。2014年12月にASEAN地域(タイ、マレーシア、シンガポール、フィリピン)とフィンランドの環境担当者が本社に集まり、環境活動におけるムラタの理念、ムラタ環境スタンダードを共有するために環境グローバルミーティングを開催しました。

3年前にムラタグループに加わった Murata Electronics Oy、2年前に工場が稼働した Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc. などは、ムラタの環境活動における理念が十分に浸透しておりません。また設立されて20年以上経つ工場でも担当者が代わった時に十分に引き継ぎがされていないことがあります。そのため環境活動に携わるメンバー全員がムラタ環境スタンダードを理解

し、各工場で自ら考えて動けるようにならなければなりません。5日間のミーティングでは、本社スタッフと海外環境担当者がこれまでうまく伝わっていなかったことについて話し合い意見交換を行うことで、お互いの理解を深めることが出来ました。ミーティングの一環として八日市事業所に出向き、現場での事例を実際に目で見て確認しました。またムラタが委託している産業廃棄物処理プラントにも出向き、処理が困難な廃液の処理工程を見学しました。このミーティングでムラタ環境スタンダードを理解し、実際の現場を確認出来たことで、メンバーは各工場で更なる環境活動のレベルアップに取組んでいます。

これから事業拡大に伴い新たな会社、工場が設立されることが考えられますが、定期的にミーティングをおこない自らが判断し動ける組織となるよう強化して参ります。

ものづくりの過程と、 ものづくりから生み出される製品・サービスを通して。

環境負荷低減への貢献のためにムラタが取組んでいることには、2つの側面があります。1つは、ものづくりの過程で材料やエネルギーの使用を抑制するとともに、環境負荷物質の排出を極力抑えることです。

もう1つは、ムラタの製品・サービスを通して、社会全体の環境負荷低減に貢献することです。小型・薄型・多機能の電子部品は、最終製品の高密度化・高効率化を通して社会全体としての省資源化を実現し、また、省エネルギー化にも貢献します。

ものづくりの過程では、2012年度を基準年として、3カ年計画でCO₂排出量の15%の原単位削減目標を掲げ、2014年度では14%削減と順調に推移しています。ムラタの主力製品であるセラミックス電子部品には「焼成」の工程が不可欠であり、ここに多くのエネルギーを使用します。焼成炉の構造や雰囲気など、条件を最適化することで省エネルギーに大きな成果を上げることが出来ました。ムラタには、もともと生産設備や生産プロセスを

自ら構築する文化があります。開発、生産技術、更には製造に携わる人が、自らの生産設備を自分たちで考え、運用し、改善していく考え方が深く根付いています。あらゆる事業所、あらゆる生産工程で、CO₂削減への取組みが実践され、成果を生み出しています。それはまたコストダウンや生産設備・作業環境の改善など多くの成果にも結実しています。

もう1つの、製品・サービスを通しての環境負荷低減については、ものづくりの過程のように具体的な数値目標を掲げることは困難ですが、ムラタの製品・サービスの社会的な影響は極めて大きいものと自覚しています。今後は、電子部品における環境負荷低減への貢献度を客観的に示す指標を模索しながら、その価値を積極的に提案し、新たなビジネスチャンスを創出していきたいと考えています。

この2つを両輪として、ムラタのものづくりにおける一人ひとりの取組みと位置づけ、環境負荷低減の活動を継続して参ります。

[環境貢献]

ムラタのものづくり、 一人ひとりの 取組みとして 環境負荷低減に貢献を。

株式会社村田製作所
取締役常務執行役員
井上 亨

環境保全推進

地球温暖化
防止

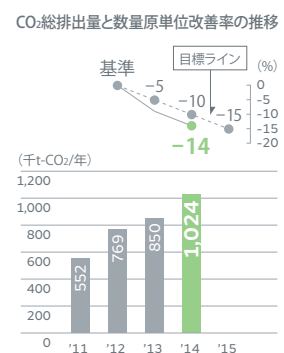
みんなで協力し、エアー漏れ点検で温暖化防止

ムラタの生産設備は、コンプレッサで圧縮したエアーを使用しています。生産設備のエアー漏れはコンプレッサの電力を浪費し、結果的に温暖化の原因となります。

小松村田製作所では2012年度より省エネパトロールの一環で、全工程設備のエアー漏れ点検をおこなっています。エアー漏れ点検は、工程が休止している休日に施設保全員がリークテスターを使い生産設備のホースつなぎ目からエアー漏れが無いか確認し、発見したエアー漏れについて製造部門や生産技術部門が修理するという地道な活動です。この取組みは関係部門間で密接な連携が必要であり、図面や写真を用いた見える化などの工夫も取入れることにより、関係部門が積極的に協力して今日まで続けることが出来ました。その結果、活動が評価され2014年にムラタグループの温暖化防止特別委員会表彰を受賞でき、地道な活動が評価されたと大変喜んでいます。今後もさらに活動を継続させ、エアー漏れ撲滅に向け取り組んでいきます。

ムラタでは、事業活動で排出される温室効果ガスの総量削減に向けて温暖化防止方針を掲げています。目標達成のため、温暖化防止特別委員会を中心にムラタグループ全体で活動を行っています。

写真左より
株式会社小松村田製作所 サービス課
天田 守
山口 剛

多面的な効果を見出す、
継続的な廃棄物削減への取組み

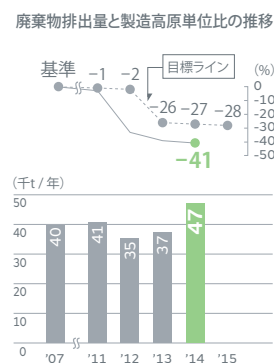
岡山村田製作所では、製造部門と環境部門が協力して取り組むことにより、大量に発生していた廃棄物を90%削減することが出来ました。この活動は、単に廃棄物を削減出来ただけでなく、処理コストの大きな削減成果を生むことで事業活動に貢献し、そのことが次の活動に向けた意欲の源泉となりました。

廃棄物削減の取組みは、ムラタの環境負荷低減活動の歩みと共にあり、20年以上続いています。

成熟期を迎え、削減活動の難易度は高まっていますが、単なる廃棄物削減だけでなく、様々な角度から効果を見出すことによって、新たな推進力を生み出し、今後も緩みない活動を継続していきます。

ムラタでは、2003年度にゼロエミッション※を国内グループで達成しました。現在は、海外でのゼロエミッションと、廃棄物発生量そのものの削減に取り組んでいます。より安定確実に廃棄物を処理するため、廃棄物管理体制の強化をめざします。

写真左より
株式会社岡山村田製作所 管理部 事務課
奥山 淳一
株式会社岡山村田製作所
第2製造部 生産技術一課
金堂 光太



※ゼロエミッションとは、直接及び中間処理も含めた埋立廃棄物をゼロにし、リサイクル率100%にすること、ムラタでは定義しています。（浄化槽余剰汚泥など自らの取組みだけでは対応できない廃棄物は除外しています。）

廃棄物削減

生物多様性

地域の植物、生き物との共存。
親しまれる工場であり続けるために。

金沢村田製作所では、事業活動に伴う生態系への影響を配慮して、地域にゆかりのある樹木や花を育てて生物多様性の保全活動に取り組んでいます。事業所内には、カブトムシが自然繁殖する緑地や、カルガモ、白サギなどが立ち寄る池があり、様々な生き物を見ることが出来ます。更に、地元白山に生息する蝶の散歩道をイメージした「バタフライガーデン」は、お客様や従業員の癒しの場になっています。また、地元の小学校を対象に、環境と科学をテーマにした出前授業をおこなっています。今後も生物多様性に配慮した事業活動と、地域貢献活動を通じて、より地域のみなさまに親しまれる工場をめざしていきます。

「そこにムラタがあることがその地域の誇りでいたい」
地域、社会に密着した事業経営を実現するため、小中学生向け環境学習の実施やムラタの森と題した里山保全活動、事業所緑化活動などを継続的に実施しています。

写真左より
株式会社金沢村田製作所 管理部 環境課

瀬戸 佑佳
佐藤 憲章

物流倉庫集約による国内物流の効率化

ムラタでは、2013年度から段階的に国内物流網をよりシンプルな流れになるよう見直してきました。主なポイントは物流倉庫の集約です。ムラタの製品をお客様に出荷するための物流倉庫は、地域別に複数箇所に分かれていましたが、それらを1カ所にまとめました。その結果、各生産工場から出荷する送り先を集約することが出来、地域別の仕分けやトラックの積み替えを行うことが不要となりました。

また、物流倉庫が1カ所になったことで、複数方面に分かれていたトラックの運行ルートを集約することができ、積載効率の向上にもつながりました。この取組みの結果、国内物流におけるCO₂の排出量を実質生産高原単位で2013年度比27%削減することが出来ました。

製造段階だけでなく、製品を輸送する物流段階においても環境負荷削減に取り組んでいます。輸送の効率化でCO₂を削減するとともに、包装材を削減して廃棄物を減らしています。

株式会社村田製作所 生産システム部 物流システム2課
本多 浩二

物流CO₂削減
(国内物流効率化)

従業員への責任と行動

ムラタグループの
国内事業所における
育児休職の取得率

100%
(復帰率:93%)



短時間勤務の経験を生かして、スマートな働き方をリードする。

私は工学部電気電子工学科を卒業し、2000年にムラタに入社しました。当時のムラタには女性の総合職は少なく、私がその部門に配属されたのは初めての女性総合職でした。そこで商品設計を担当し、お客様に近いところでやりがいのある仕事をさせてもらっていました。そんな私に転機が訪れました。2004年、出産準備のために産休をとることになったのです。総合職として仕事を続けられるか、不安もありましたが、周囲の方の後押しもあり、産休・育児休暇を経て働き続ける決断をしました。復帰後は、子供を保育園に預けて送り迎えをするため、短時間勤務に入りました。出産前とは異なり、短時間勤務でも仕事の成果を出す必要があるため、私なりに仕事の段取りなどの工夫が必要でした。目標に最短距離で到達するための実験手法の模索や、その案件に詳しい上司や同僚の“知恵”を引き出す。やり方次第で、同じ成果を出すのにも時間はずいぶん短縮できる、ということを実感しました。

私の現在の仕事は、製品が壊れるまで負荷をかけその弱点を見極め、壊れたメカニズムを解析する課題抽出業務をしており、部内では「壊し屋」と呼ばれています。この仕事は製品のスペックに直接反映するものではありませんが、試験結果を開発メンバーにフィードバックし、製品の

品質や安全性の向上につなげることで、ムラタのものづくりの根幹を支えています。全社的には壊れるまで試験をするという文化は浸透しているとはいえませんが、この「壊し屋」の知見やスキルをじっくりと時間をかけて社内に根付かせていくことも自分の役割と自覚しています。

女性ならではの視点は、ムラタでも会社の成長に伴って、ますます重要になってきています。私が入社した時と比べて、女性の総合職はムラタにも文系、理系問わず増えてきていますし、これからも増えてくるでしょう。ムラタでは女性が活躍出来る支援制度があり、職場の理解やサポートも受けられる環境が整ってきていると感じています。

今私は、子供も大きくなり、短時間勤務を終えてフルタイムの勤務に戻っていますが、短時間勤務の限られた時間のなかで成果を追求する経験を積んだことは今も生きていていると感じています。これからお母さんになって、私と同じように働き続けるみなさんには、残業ができないなど、焦りを感じる時期もあると思います。でもそのような時も、あまり気負わず、カバーしてくれる周りへの感謝の気持ちを持って働いてほしいです。そして、復帰後には長時間勤務に頼らない働き方を職場でリードできる存在として活躍し続けてほしいと思います。

[女性の活躍推進]

家庭、そして職場でも、
必要とされる自分であるために。
“女性の活躍”が
期待される職場。

株式会社村田製作所
新規商品事業部
製造・材料技術1部
佐藤 貴子

マレーシアの土壤にムラタの理念を根付かせ、 ムラタマレーシアの一員としての誇りを持つ。

グローバルな人事交流の一環として、私たち4人はMurata Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd. (以下、ムラタマレーシア) から日本の登米村田製作所に出向しました。主な仕事は、積層コイルに関する技術開発、工程改善、不良率の削減、部品の評価などです。そのような技術的な取組みと並行して、社是关于のワークショップに参加し、ムラタの経営理念について学びました。それまでムラタマレーシアでは社是の教育はほとんどおこなわれておらず、私たちも最初は理解するのに苦労しました。しかし、学んでいくにつれ、私たちが毎日それぞれの職場で取組んでいることは、「技術を錬磨し」「科学的管理を実践し」「独自の製品を供給して」など、社是の実践に他ならないという思いに至りました。そして、私たちは登米村田製作所で学んだ技術と共に社是の精神を携えてムラタマレーシアに戻りました。

2012年、私たちはムラタマレーシアで社是の精神を共有するためのプロジェクトを立ち上げました。マレー語の資料を用意することに

加え、社是のワークショップやムラタブランドのことをよく知ってもらうためのワークショップを開催しました。また、社是の精神に私たちが独自で大切にしたいキーワードを加え、「ムラタマレーシア・ベーシック」としてまとめました。マレーシア人である私たちが、私たちの言葉で、私たちが理解した社是の精神を伝えることに意味があると考えたからです。従業員からは、ポジティブなフィードバックがたくさん返ってきました。今では、多くの従業員がムラタマレーシアの一員であることに誇りを持ち、また、毎日の仕事のなかで社是が行動や判断の拠り所となり、自分たちの職場環境をよりよくすることにつながってきていると感じています。

象徴的なのは「Thank you」という言葉が、社内ですぐ聞かれるようになったことです。「ありがとう」とお互いに言い合うことで、仕事のモチベーションも上がってきます。これも、社是のなかにある言葉「これをよこび感謝する人びととともに運営する」が浸透してきたことの証しではないでしょうか。

1 朝礼で社是を唱和する様子

2 社是のワークショップの様子

ムラタグループにおける
経営理念のワークショップを
開催した事業所数

国内: **20** 事業所

海外: **19** 事業所



リスクマネジメント／コンプライアンス

情報 セキュリティ

人、施設、情報システムの 各視点からセキュリティを向上

企業機密の漏えいやサイバー攻撃など、情報セキュリティへの脅威に対してより適切な施策を講じる必要性が高まっています。ムラタでは、グループ全体の対応方針として「情報セキュリティ基本方針」を制定し、具体的な情報の管理方法を「情報セキュリティ管理規定」に定め、情報セキュリティの維持向上に取り組んでいます。取組みの一例として、全社の情報セキュリティ施策の継続的な改善をすすめるためにリスク管理委員会のなかに「情報セキュリティ分科会」を組織し、人、施設、情報システムの各視点から情報セキュリティに関し、PDCAを回し整備をすすめています。

また、全従業員に「情報セキュリティガイドブック」を配付し、全社的な定期的教育、入社時や階層ごとの教育、研究開発、営業、購買といった職能ごとの教育を実施することで、情報セキュリティに関する従業員一人ひとりの意識強化をはかっています。

写真／野洲事業所でのワークショップの様子



贈収賄防止

よき企業人として、社会模範を深く内面化

ムラタでは、ムラタ及びムラタ社員が活動する際の行動規範として、「企業倫理規範・行動指針」を定め、社員に対して社会的ルールに敏感になって、よき企業人として社会への責任を果たすことを求めています。2014年には、国内外を問わず、法令違反となる贈収賄行為を未然に防止することを目的に含めた「カルテル及び贈収賄防止に関するベーシックポリシー」を作成しました。

そこでは、公務員または民間企業であるかを問わず、法令及び商慣習に照らして明白且つ確実に許される場合を除き、金銭など、一切の利益の便宜や申し出をしないこと、また、反対に何らかの便宜を受けたり、要求をしないことを定めています。また、国内外の事業所向けに研修会を実施したり、ヒアリングなどもおこなうことで、贈収賄防止に関する教育と啓蒙、未然防止に努めております。

写真／本社でのセミナーの様子



社会・地域への責任と行動

盛岡 久慈

地元の人々と協力して 環境維持活動を推進

盛岡東京電波株式会社久慈工場は、1995年に岩手県久慈市の誘致企業として操業を開始し、2013年にムラタグループに加盟しました。

久慈市は自然豊かな地域で季節ごとに地域全体で環境維持活動がおこなわれていますが、盛岡東京電波でも操業以来地域の一員として環境維持活動を継続的に実施しています。

春は雪解け後に梅雨時期に向けた道路側溝の清掃を行い、夏は雑草が生い茂る前にゴミ拾いをおこない、新緑が深くなると草刈りを2回実施します。また冬には降雪時に工場周辺の除雪活動をおこなっています。

これらの活動は地道な活動ですが地元の方々からも感謝されており、今後も地元の方々と協力し合いながら地域のために貢献していきたいと考えています。

写真／環境維持活動の様子



Philippine

フィリピンの子供たちに学ぶ機会と設備を提供

フィリピンの公立学校は十分な財政支援がなく設備や教員が慢性的に不足しています。

Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.では、環境と教育への支援を地域貢献活動の基本とし、2014年度は地元バタンガス州タナワン市の学校を支援しました。

2015年1月の交流会では、約130名の生徒とその保護者、教員にムラタの紹介や環境学習を実施し、また物的支援として教室や食堂で使用する机、木材などの寄付をおこない、学校からムラタの支援に対し感謝状を頂きました。

Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.は操業してまだ2年ですが、今後も地域社会と共に成長し地域の発展に貢献していきたいと考えています。

写真／環境学習の様子



[CSR活動における目標と実績]

ムラタでは、重点取組みテーマを設定し、
各種施策を推進して継続的な改善に取り組んでいます。

■第5次環境行動計画（2011年度～2015年度）に対する2014年度の実績と2015年度の目標					○:達成 △:ほぼ達成 ×:未達成
項目	2014年度目標	2014年度実績	評価	2015年度目標	
【1】製品の環境配慮	環境配慮製品の拡充と環境配慮技術（工法）開発の継続	環境に配慮した設計・開発を目標設定し、環境配慮技術の開発に継続して取り組んだ。この結果、製品の小型化、省エネに貢献する環境配慮製品の拡充につながった。	○	環境配慮製品の拡充と環境配慮技術（工法）開発の継続	
	製品に含有する環境負荷化学物質の削減・代替の遂行継続	環境負荷化学物質の削減・代替を計画通り遂行した。	○	製品に含有する環境負荷化学物質の削減・代替の遂行継続	
	環境配慮製品の拡売による低環境負荷社会への貢献	環境配慮製品の提案・認定取得・拡売の活動を展開してきた。 多くのユーザーから認定が得られ、順次既存品からの置換が進行中である。	○	環境配慮製品の拡売による低環境負荷社会への貢献	
【2】温暖化対策	(1)生産拠点における取組み	生産拠点における品種別CO ₂ 排出量と数量原単位の把握	○	生産拠点における品種別CO ₂ 排出量と数量原単位の把握	
		製造時におけるCO ₂ 排出量の削減施策の実施及びモニタリングの継続	○	製造時におけるCO ₂ 排出量の数量原単位2012年度比15%削減	
	(2)物流における取組み	(国内) 物流におけるCO ₂ 排出量の実質生産高原単位2007年度比49%削減	○	(国内) 物流におけるCO ₂ 排出量の実質生産高原単位2007年度比60%削減	
		(海外) 物流におけるCO ₂ 排出量の削減施策の実施	○	(海外) 物流におけるCO ₂ 排出量の削減施策の実施	
	(3)グリーン購入に関する取組み	(国内) グリーン購入率95%達成	○	グリーン購入率100%達成。 ※一部のやむを得ないケース（クリーンルーム使用品など）を除く	
	【3】化学物質	環境負荷化学物質使用量原単位前年度比1%削減	○	環境負荷化学物質使用量原単位前年度比13.9%削減。	
【4】省資源・資源循環	(1)廃棄物に関する取組み	廃棄物排出量原単位前年度比1%削減	○	廃棄物排出量原単位前年度比1.2%削減。	
		(海外) ゼロエミッション達成に向けた取り組み継続	○	(海外) ゼロエミッション達成	
	(2)容器包装における取組み	環境負荷低減につながる包装資材の改善を1件以上提案する	○	環境負荷低減につながる包装資材の改善を提案し、進行中。	
	(3)生産工程における取組み	原材料ロス率の低減	○	各工程ごとに収率UPなどの改善策に取り組んだ。	
【5】生物多様性	生物多様性に関する従業員教育の継続実施		○	新入社員及び中途入社者を対象とした教育の資料に、生物多様性に関する項目を盛り込み教育を実施した。	
	生物多様性をテーマとした小中学生向け環境学習の実施		○	ムラタの森活動において、森を題材とした木々と人との関わりについての教育を実施した。	
【6】環境社会貢献活動	環境社会貢献活動の継続実施		○	地域、社会に密着した事業経営を実現するため、小中学生向け環境学習の実施やムラタの森と題した里山保全活動、事業所緑化活動などを継続的に実施した。	

■2014年度の社会性目標に対する実績と2015年度の目標

項目	2014年度目標	2014年度実績	評価	2015年度目標
【1】内部統制システム	グローバル化に対応した内部統制整備をすすめる（新設拠点・M&A会社への展開含む）。	海外の2拠点及びM&A会社1拠点を新たに内部統制整備の対象拠点に加え、継続して対象範囲の拡大に取り組んだ。	○	継続して内部統制の整備をすすめることで、法令、定款、社内規定などへの適合において重大な問題の発生件数ゼロ件を維持する。
	データを活用した効率的・網羅的監査を実施する。	資材及びファシリティーの購買プロセスにおいて、データを活用した効率的・網羅的に監査を実施した。	△	グローバル化に対応して効率的な監査を実施し、新設拠点・M&A会社への内部統制の拡大をすすめる。
	業務の有効性・効率性のさらなる向上及びコンサルティング活動を推進する。	業務の有効性・効率性向上の視点で、業務の標準化・見える化や業務改善を支援した。更に、新たなリスクに応じた業務手続の見直しを提案した。	○	
【2】コンプライアンスの推進	1. コンプライアンス意識の浸透 ・コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信の継続（12回/年） ・コンプライアンス確認テスト・アンケートの実施 2. コンプライアンス教育の充実 ・ケースメソッドなどを用いたグループ討議の実施 ・競争法・贈収賄規制に重点を置いた集合教育（国内外の営業・事業部対象）の実施 3. グローバル・コンプライアンスの基盤強化 （「独占禁止法の遵守」「接待・贈答」） ・競争法遵守、贈収賄防止のためのガイドライン配信	1. コンプライアンス意識の浸透 ・コンプライアンス知識に関するメールマガジンを毎月1回（12回/年）発行した。 ・10月を強化月間とし、当社及び関係会社において、コンプライアンス確認テスト・アンケートを実施した。 2. コンプライアンス教育の充実 ・当社及び国内関係会社の各職場において、倫理的シレンマを含む判断の難しい事例を用いたグループ討議を実施した。 ・競争法・贈収賄規制に重点を置いた集合教育を国内2拠点で実施した。 3. グローバル・コンプライアンスの基盤強化 ・「カルテル及び贈収賄防止に関するベシックポリシー」を制定し、当社グループの役員・従業員に対して配信した。	○	1. コンプライアンス意識の浸透 ・コンプライアンス推進活動に関する定期的な情報発信の継続（12回/年） ・コンプライアンス確認テスト・アンケートの実施 2. コンプライアンス教育の充実 ・ケースメソッドなどを用いたグループ討議の実施 3. グローバル・コンプライアンスの基盤強化 ・企業倫理規範・行動指針の一部改訂（「独占禁止法の遵守」「接待・贈答」） ・「カルテル及び贈収賄防止に関するベシックポリシー」を実践するための継続的な仕組みを、各国・地域の状況に応じて柔軟に再構築していく
【3】リスクマネジメントの強化	当社の事業継続を阻害する主要なリスクに関して継続的なリスク低減策を実施するとともに、グローバルレベルでの経営環境の変化に伴う新たなリスクの出現を注視し、迅速な対応をおこなう。	主要なリスクの抽出・評価を定期的に行い、各リスクに関する対策とその有効性の確認を実施。	○	・多岐にわたるグローバルなリスクに対応するため、既存のリスク対策の有効性を検証するとともに、継続的な改善をおこなう。 ・新たに出現するリスクをタイムリーに認識し、リスクの評価から対策の立案、実施までのサイクルを迅速・確実に機能させる。
【4】社会・地域への責任と行動	未来を担う子供たちへの育成支援としておこなう理科や環境に関する体験学習や、地域の振興、事業所の緑化や森林保全など、地域社会に定着しよるこばれる社会地域貢献活動を継続しておこなう。	小中学生を対象とした理科教育・環境教育、また地域清掃活動や森林保全活動を国内外で継続して実施。	○	・子供向けの理科教育や環境教育を通じて、未来を担う人材の育成支援を継続しておこなう。 ・事業所の緑化、森林保全など、近隣社会に根ざした地域貢献活動を継続的におこなう。
【5】仕入先様への責任と行動	「紛争鉱物問題」への対応として、業界団体との連携を密にし、仕入先様と共に紛争鉱物情報（製錬業者情報）の調査をおこない、よりリスクの少ない部資材を使用する努力を継続する。	前年から継続して製錬業者情報の調査を実施し、一部の製品を除き調査を完了した。	○	「紛争鉱物問題」への対応として、業界団体との連携を密にし、仕入先様と共に紛争鉱物情報（精錬業者情報）の調査をおこない、よりリスクの少ない部資材を使用する努力を継続する。
	主要事業所において下請法講習会を実施し、資材要求部門の社員一人ひとりにおける下請取引の認識を深める。また講習会資料、ビデオなどの下請法教育ツールを充実させ、広範囲な下請法教育をおこなうことが出来る基盤を構築する。	主要施策を計画通り実施した。	○	仕入先様のCSR遵守状況を定期的に確認する仕組みを構築することで、変化する社会情勢や得意先様の要求に対応したCSR関連の実践をはかる。
【6】従業員への責任と行動	災害発生時に参照する資材生産場所情報を整備し、タイムリーに情報更新することで、精度の高い情報に基づき、有事の対応をおこなうことを可能とする。	資材生産場所情報の調査と更新を継続的におこなった。	○	災害発生時に参照する資材生産場所情報をタイムリーに更新することで、精度の高い情報に基づいた有事の対応をおこなう。また情報収集の仕組みをシステム化することで調査効率の向上と対応期間の短縮をはかる。
	・適性に応じたキャリアを選択できる制度の実行 キャリア形成プログラムによる異動の実践 ・シニア層の活躍支援 キャリアマネジメント研修会の実施 2014年度9回	・入社4年目社員の自己申告を実施し、2010年入社のCDP実施率は48%となった。 ・キャリアマネジメント研修は、9回開催した。	○	・適性に応じたキャリアを選択できる制度の実行 キャリア形成プログラムによる異動の実践 ・女性の活躍、キャリアに関する社内講演会の開催 ・シニア層の活躍支援 キャリアマネジメント研修会の実施 2015年度8回
	・ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続 セクハラ・パワハラ研修未受講役職者全員に対して、2014年度4回実施 ・人権教育の継続 階層教育として年1回実施	・セクハラ・パワハラ研修未受講役職者全員に対して実施した。（2回実施） ・人権教育を階層教育として1回実施した。	○	・ハラスメント防止のための啓蒙・教育の継続 セクハラ・パワハラ研修未受講役職者全員に対して、2015年度4回実施 ・人権教育の継続 階層教育として年1回実施
	・仕事と家庭の両立支援制度（ワークライフバランス）の充実・定着化 従業員子供参観日の開催 1回	下記の通り、従業員の子供を対象とした子供参観を開催した。 実施日時：2014年8月7日13：00～17：30 参加者：小学5・6年生24名 実施内容：職場インタビュー・職場見学・名刺交換など	○	・仕事と家庭の両立支援制度（ワークライフバランス）の充実・定着化 従業員子供参観日の開催 1回
	・経営理念の浸透・共有策の推進 役員主催研修の実施 35回 ・外国人採用の継続 新卒入社者：3名 ・外国人出向者受け入れ推進 2014年度 20人 ・グローバル化教育の実施（英語力、中国語力強化） 英語強化研修、中国語強化研修 上下期各1セット実施	・役員主催研修の実施 41回 ・外国人採用 入社者：1名 ・外国人出向者受け入れ：29名 ・国内英語力強化研修を実施した。（トータル受講人数318名）	○	・経営理念の浸透・共有策の推進 理念共有ワークショップの実施 30回 ・外国人採用の継続 新卒入社者：5名 ・外国人出向者受け入れ推進 2015年度 20人 ・グローバル化教育の実施（英語力、中国語力強化） 英語強化研修、中国語強化研修 各1セット実施
	・労働災害再発防止のための取組みを強化する。 ・安全衛生意識向上の取組みを強化する。 ・安全衛生教育の継続・推進 体感・KYT・リスクアセスメント教育の実施 ・管理職を対象とした意識向上に向けた取組みの実施	・過去の労災事例をもとにした、作業に潜む危険及び設備使用時の危険を体感させる教育（一般従業員向け） ・KYT教育（一般従業員向け） ・リスクアセスメント教育（一般従業員向け） ・部下に対する安全配慮義務を盛り込んだメンタルヘルス教育（管理職向け）	○	・労働災害の発生を防止するための取組みを継続・推進する。 ・労働安全衛生マネジメントシステムの構築 OHSAS18001外部認証 取得：1事業所、維持：27事業所 ・安全衛生教育の推進 リスクアセスメント教育 30回 KYT教育 5回

第三者からのご意見

ムラタのCSRに寄せて

ムラタグループでは、本業で社会課題の解決へと取り組む姿勢を明確に表示しています。新たな技術の開発だけではなく、技術の組み合わせや経験を通じた新しい価値を提案することで、社会課題に取り組んでいます。また部品メーカーとして、一般から分かりにくい技術やその活用について、機能を抽出してムラタセイサク君®や村田製作所チアリーディング部という形に変え親しみやすく具現化して伝えています。これらのロボットは、災害救助や自動車の安全などに応用が期待される技術を分かりやすく伝えるものであり、楽しみながら興味を持って学ぶことができる、大変素晴らしいアイデアだと思います。ムラタは何を作ってどうやって社会に貢献していくかを表現したものであり、ムラタグループが送り出す製品に期待が高まります。

Murata Reportは従業員の顔が見える報告書です。特に後半のCSR Report部分は男性女性、日本人外国人、若手ベテランと様々な顔が見えます。グローバルな人材活用を志向されていることの象徴と感じます。女性の活用という視点で記事を取り上げていますが、本質的には「働き方」を変えるということであり、すべての人が働きやすい職場環境をつくりたいというメッセージが込められているのではないかと思います。グローバルに拡大するムラタグループに経営理念を浸透させていく活動ともリンクし、ムラタグループにおける価値観を共有していくことにつながります。今後も更に進めていただきたい活動です。

前半が会社案内、後半がCSRレポートという形式は、いわゆる統合報告を志向しているように見えますが、ムラタグループでは特に統合を意識せず、環境やCSR活動といった非財務情報を読み解くために、事業の概要や活動状況を前半に配置しています。2015年版は非財務情報における数値情報も増加し、事業の概況と連携させて数値を読み解くことができる項目が更に増えました。CSR憲章に沿ったKPI(主要なパフォーマンス指標)を決めて開示し、それが本業の長期展望や経営計画の中でどのような位置づけにあり、どのような進捗状況を示しているのかわかるようになれば、更にムラタグループのあるべき姿、目指す姿が具体的に読者に伝わるのではないかと思います。また外から見たムラタグループについて、ムラタグループと係わる様々な立場の方とコミュニケーションをとり、双方向で話を聞く対話の場、座談会(ダイアログ)などを開催してみたいかがでしょうか。



神戸大学大学院
経営学研究科 教授

國部 克彦氏

Profile

国内外拠点一覧

[国内拠点一覧]

村田製作所 / 本社・支社・事業所・営業所	
本 社	株式会社村田製作所
支 社	東京支社
事業所	横浜事業所／野洲事業所／八日市事業所／長岡事業所
営業所	仙台／水戸／さいたま／東京／立川／浜松／名古屋／安曇野／京都／神戸／岡山／福岡

[海外拠点一覧]

North & South America 南北アメリカ	
U.S.A.	Murata Electronics North America, Inc. Murata Power Solutions, Inc. Peregrine Semiconductor Corp.
Canada	Murata Power Solutions (Toronto) ULC
Mexico	Murata Electronics Trading Mexico, S.A. de C.V.
Brazil	Murata World Comercial Ltda. 他

Europe ヨーロッパ	
Netherlands	Murata Electronics Europe B.V.
Germany	Murata Elektronik GmbH
U.K.	Murata Electronics (UK) Limited Murata Power Solutions (Milton Keynes) Limited Murata Power Solutions (Celab) Limited Peregrine Semiconductor UK Ltd
France	Murata Electronique SAS Peregrine Semiconductor Europe
Italy	Murata Elettronica S.p.A.
Finland	Murata Electronics Oy 他

上記の国以外にスペイン、ハンガリー、スイスにセールスオフィスを設置しています。

国内関係会社	
株式会社福井村田製作所	株式会社大垣村田製作所
株式会社出雲村田製作所	株式会社アスワ村田製作所
株式会社富山村田製作所	株式会社穴水村田製作所
株式会社小松村田製作所	村田土地建物株式会社
株式会社金沢村田製作所	株式会社ムラタ栄興
株式会社岡山村田製作所	株式会社ムラタアクティブパートナー
株式会社金津村田製作所	株式会社ムラタエレクトロニクス
株式会社鯖江村田製作所	ムラタソフトウェア株式会社
株式会社イワミ村田製作所	ムラタ分析パートナー株式会社
株式会社ハクイ村田製作所	東京電波株式会社
株式会社氷見村田製作所	盛岡東京電波株式会社
株式会社アズミ村田製作所	北見東京電波株式会社
株式会社小諸村田製作所	東光株式会社 他
株式会社ワクラ村田製作所	
株式会社登米村田製作所	東光株式会社は、東光株式会社を含め国内に3社、海外に21社のグループ会社を展開しています。

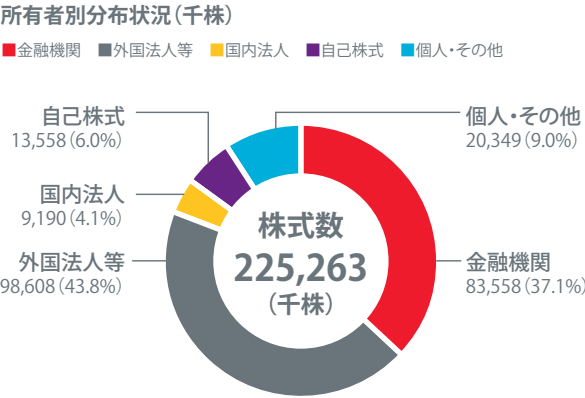
Asia アジア	
China	村田(中国)投資有限公司 (Murata (China) Investment Co., Ltd.) 無錫村田電子有限公司 (Wuxi Murata Electronics Co., Ltd.) 深圳村田科技有限公司 (Shenzhen Murata Technology Co., Ltd.) 村田電子貿易(天津)有限公司 (Murata Electronics Trading (Tianjin) Co., Ltd.) 村田電子貿易(上海)有限公司 (Murata Electronics Trading (Shanghai) Co., Ltd.) 村田電子貿易(深圳)有限公司 (Murata Electronics Trading (Shenzhen) Co., Ltd.) 賽芯電子技術(上海)有限公司 (SyChip Electronic Technology (Shanghai) Ltd.) 村田电源技术(上海)有限公司 (Murata Power Solutions (Shanghai) Co., Ltd.) 广州村田电源技术有限公司 (Guangzhou Murata Power Solutions Limited) 佛山村田五鉾精密材料有限公司 (Foshan Murata Minmetals Materials Co., Ltd.) 東莞村田電子有限公司 (Dongguan Murata Electronics Co., Ltd.)
Hong Kong	村田有限公司 (Murata Company Limited) Murata Power Solutions (Hong Kong) Limited
Taiwan	台湾村田股份有限公司 (Taiwan Murata Electronics Co., Ltd.)
Korea	韓国村田電子株式会社 (Korea Murata Electronics Company, Limited)
Singapore	Murata Electronics Singapore (Pte.) Ltd.
Thailand	Murata Electronics (Thailand) , Ltd. Thai Murata Electronics Trading, Ltd.
Malaysia	Murata Electronics (Malaysia) Sdn. Bhd.
Philippines	Murata Electronics Philippines Inc. Philippine Manufacturing Co. of Murata, Inc.
India	Murata Electronics (India) Private Limited
Vietnam	Murata Electronics (Vietnam) Co., Ltd. 他

役員一覧平成27年7月1日現在

代表取締役	取締役社長	村田 恒夫
	取締役副社長	藤田 能孝
取締役	村田 恒夫	
	藤田 能孝	
	井上 亨	
	中島 規巨	
	岩坪 浩	
	竹村 善人	
	石野 聡	
	吉原 寛章 (社外取締役)	
	重松 崇 (社外取締役)	
監査役	常勤監査役	田中 純一
		岩井 清
	監査役	豊田 正和 (社外監査役)
		中西 倭夫 (社外監査役)
		西川 和人 (社外監査役)
執行役員	常務執行役員	井上 亨
		中島 規巨
		小島 祐一
		藺田 聡
		岩坪 浩
	上席執行役員	竹村 善人
		石野 聡
	執行役員	鴻池 健弘
		丸山 英毅
		多田 裕
		石谷 昌弘
		水野 健一
	フェロー	酒井 範夫
	執行役員	宮本 隆二
		鯨谷 佳和

株式の状況平成27年3月31日現在

株式事項	当期末発行済株式総数	225,263千株
	当期末株主数	49,127名



株式上場	〔国内〕	東京証券取引所 市場第一部
	〔海外〕	シンガポール証券取引所

大株主の状況平成27年3月31日現在

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
ジェービー モルガン チェース バンク 380055	19,841	9.4
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	10,218	4.8
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	9,969	4.7
日本生命保険相互会社	7,361	3.5
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	7,318	3.5
株式会社京都銀行	5,260	2.5
明治安田生命保険相互会社	5,240	2.5
株式会社滋賀銀行	3,551	1.7
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン エス エー エヌ ブイ 10	3,164	1.5
株式会社みずほ銀行	3,000	1.4

(注) 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式 (13,558千株) を除いて計算しております。